

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 田原 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

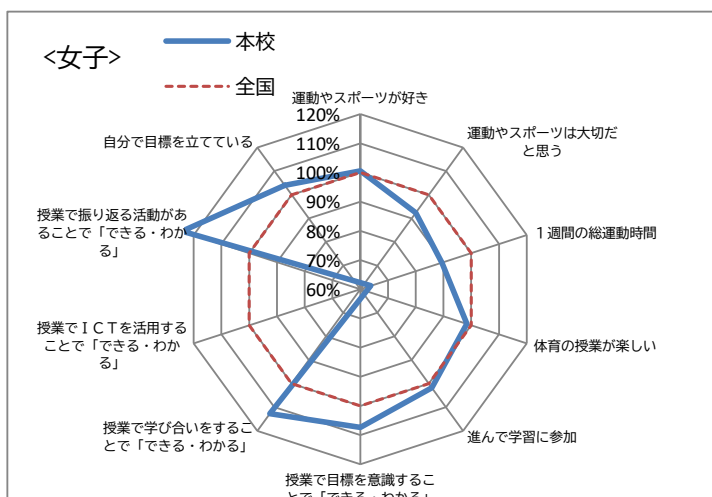
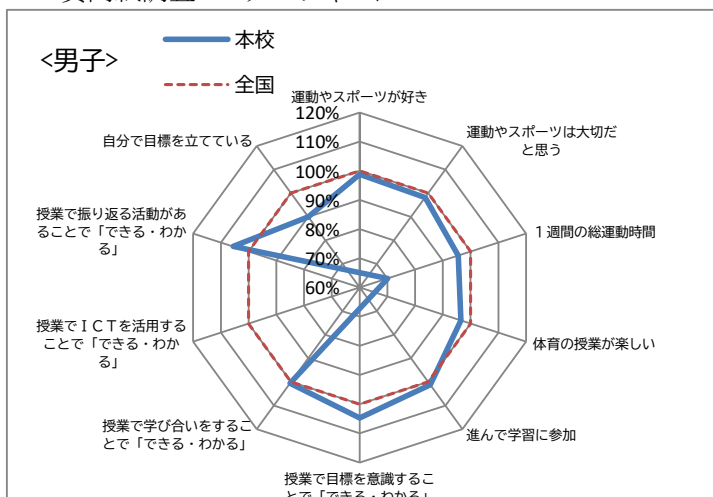
| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.01 | 19.19 | 33.79 | 40.66 | 46.90 | 9.50 | 150.42 | 20.75 | 52.53 |
| 本市 | 15.98 | 19.39 | 34.42 | 40.27 | 49.36 | 9.54 | 150.13 | 21.81 | 53.10 |
| 本校全国平均以上の種目 | | | | | | | | | |

<女子>

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 15.77 | 18.16 | 38.19 | 38.70 | 36.59 | 9.77 | 143.13 | 13.15 | 53.92 |
| 本市 | 15.88 | 18.39 | 38.51 | 38.13 | 38.67 | 9.79 | 142.58 | 13.44 | 54.32 |
| 本校全国平均以上の種目 | | | ○ | | | | | | |

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- ・運動やスポーツに興味・関心は高いが、日常的に運動に親しむ習慣が身に付いていない。
- ・運動能力や運動習慣について、個人差が大きい。
- ・授業でICTを活用したり、その有効性に気付いたりすることができていない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・運動量の確保をしつつ、ICTを有効に活用しながら、自分の課題を見付けたり、基本的な動きのイメージやポイントをつかんだりする。
- ・準備運動の中でさまざまな動きを取り入れるようにする。特に「筋持久力」を高める動きを重点的に行う。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・全校児童を対象に、週1回中休みに「なわとびタイム」を設け、生活に運動を習慣付ける取組を引き続き行っていく。
- ・児童が日常的に運動に親しむことができるように、家庭にも啓発する。